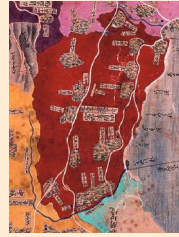


新城 歴史文化遺産マップ

新城の歴史



1671 (康熙10)年に宣野湾間切が設置されるまで新城は浦添間切の一部でした。『絵図郷村帳』には「あら城村」と記され、「琉球国由来記」には「新城村」と記されています。下原、大道原、西原、新城原、前原、東原、仲毛原、上原の八つの小字があり、新城原には近世(約17世紀〜)に計画的な暮盤型集落が築かれ、仲毛原と上原周辺には18世紀半ばから屋敷取集落が築かれました。『神明話』に詳しく記載されています。

1908(明治41)年の沖繩県及島嶼町村制で「新城村」から「字新城」へと変わり、1939(昭和14)年の行政区再編の際には仲毛原と上原が上原区の一部となりました。

新城の古島と新島

新城の集落はもともと小字下原にあり、隣接する安仁屋集落と仲が悪く喧嘩が絶えなかつたそうです。ところが近くにあったカナンシーという岩が「安仁屋くんくんけーらし、新城くんくんたばり。」(安仁屋をうんとひとひっくり返せ、新城を強く縛れ)と每晚怒鳴ったため、カナンシーを恐れて安仁屋集落を安仁屋原に、新城は集落を新城原に移したということです。移動の時期は不明ですが、新しい集落は近世琉球王国時代の計画的な暮盤型集落でした。

沖繩では17世紀末〜18世紀頃になると、首里王府の政策によって集落を別の場所に移動することがありました。沖繩ではムラのことを島(シマ)と言いますが、このように移動した集落を「新島(ミーシマ)」、もともと集落があった場所を「古島(フルシマ)」と呼びます。

遺跡から見える新城



新城では1981(昭和56)年から遺跡の分布調査が行われ、これまでに20を超える遺跡が確認されました。最も古い遺構は新城下原第二遺跡の貝塚で、約6500年前に作られた爪形土器が出土しました。同遺跡では約2000年前の川跡とイモガイ集積、約700年前の水田跡、近世の水田跡が確認されており、新城の北側に広がる平地は肥沃な湿地で、水田に適した場所だったようです。

また、新城下原第一遺跡では県内で初めてジュゴン骨製の離頭銃と約3500年前の土器が同時に出土しました。銃頭には獲物に刺さると柄から離れ、銃頭に結んだ縄を手繰り寄せて獲物を捕獲します。

丘陵上に所在する新城上殿遺跡には屋敷田の石積みや道の跡が残っており、グスク時代の土器や中国産陶磁器も出土していることから、新城原に移転する前の集落でグスク時代には人が住んでいたと考えられています。

3 イシジャー



多孔質で透水性の高い琉球石灰岩が広く分布する地帯では、雨水は蒸発あるいは地下に浸透するため河川は形成されません。しかしイシジャーは深谷状の河川で、一部では湧水も見られるため、他の琉球石灰岩地域では見られない珍しい地形といえます。深谷の両側には約120基の多様な型式の古墓が並んでいます。

4 あらしの塔



沖縄戦では戦前の住民の32%にあたる39人が亡くなりました。字新城郷友会では1968(昭和43)年に慰霊塔「あらしの塔」を建立し、毎年6〜7月に慰霊祭を執り行っています。

4 御願所



戦後もなく、消失した集落の聖地を現在の市民広場近くに仮安置した後、1968(昭和43)年に「あらしの塔」に隣接して御願所を建設し安置しました。定期的な御願やマールアシビの際にも郷友会で拜んでいます。

5 シマスカ



普天間飛行場の東側に残る全長約415mの涵洞で、入り口に続く階段を下りると、左側には湧き水を溜めた貯水槽があり、そこから溢れ出た水は入り口右側にある溝の奥へと流れています。沖縄戦では避難壕として利用されました。

新城のあゆみ

西暦 / 年号 / 出来事	西暦 / 年号 / 出来事
1609 万曆37 薩摩侵攻	1926 大正15 マールアシビ(寅年)開催。組師 忠孝丸(久川劇詩)や芝居「ヌーブアモレイ」などを上演
1649 順治6 『絵図郷村帳』に「あら城村」と記される	1932 昭和7 マールアシビ、シルークルに分かれて開催(寅年)。
1671 康熙10 宣野湾間切、新設	1938 昭和13 組師「総師」(組師 伏山劇詩(組師の波司)の上演
1717 康熙52 『琉球国由来記』に「新城村」と記される	1940 昭和15 マールアシビ(寅年)が戦争の影響で禁止。御願として「服スガシ」を実施
1872 乾隆2 乾隆大御支配元(元検地)はとまる	1944 昭和19 マールアシビ(申年)が戦争の影響で禁止。御願として「服スガシ」を実施
1879 明治12 明治政府が琉球王国を琉球藩とする	1945 昭和20 米軍、宣野湾周辺まで砲撃(4/4)普天間飛行場の建設開始(6日)
1880 明治23 遊戯(アヒビナー)が「つるれ」ムラアジビ開始?	1947 昭和22 「ヌチヌチ」(アジビ)を野黨で開催。女性初参加
1903 明治36 沖繩県及島嶼町村制により野野湾村と名を冠する	1956 昭和31 マールアシビ(申年)野黨で開催
1920 大正9 マールアシビ(寅年)開催。「フェース」(南島)の年の演舞が最後	1961 昭和36 新城原の区画整理工事が完了
1926 大正15 マールアシビ(寅年)開催。組師 忠孝丸(久川劇詩)や芝居「ヌーブアモレイ」などを上演	1962 昭和37 小規模なアジビを野黨で開催(寅年)
1932 昭和7 マールアシビ、シルークルに分かれて開催(寅年)。	1964 昭和39 新行政区設置(新行政区自治会)字新城郷友会結成
1938 昭和13 組師「総師」(組師 伏山劇詩(組師の波司)の上演	1965 昭和40 第二地区野黨の知念党、長迫原、長迫原の一部、新城の西原、新城原の一部土地区画整理事業が始まる。新城地区民運動会が始まる
1940 昭和15 マールアシビ(寅年)が戦争の影響で禁止。御願として「服スガシ」を実施	1966 昭和41 新城通(旧14号線)道路改修
1944 昭和19 マールアシビ(申年)が戦争の影響で禁止。御願として「服スガシ」を実施	1967 昭和42 第一地区土地区画整理事業(新城地内30号線の排水、歩道整備、第16号線、第10号線、第8号線の街路改修工事着手)
1945 昭和20 米軍、宣野湾周辺まで砲撃(4/4)普天間飛行場の建設開始(6日)	1968 新城自治会・老人クラブ福寿会結成
1947 昭和22 「ヌチヌチ」(アジビ)を野黨で開催。女性初参加	新城郷友会・字新城郷友会、慰霊塔「あらしの塔」建立、普天間飛行場内にあった元集落の御願所を一つ所にまとめる
1956 昭和31 マールアシビ(申年)野黨で開催	1969 昭和44 普天間第二小学校開校/新城青年会館完成
1961 昭和36 新城原の区画整理工事が完了	1970 昭和45 第二地区土地区画整理完了
1962 昭和37 小規模なアジビを野黨で開催(寅年)	1972 昭和47 沖繩県発見「新城の伝統芸能」(天川総師)10年ぶりに復活
1964 昭和39 新行政区設置(新行政区自治会)字新城郷友会結成	1981 昭和55 新任市長が訪れる(普天間、野黨、新城、喜友名の各一部)
1965 昭和40 第二地区野黨の知念党、長迫原、長迫原の一部、新城の西原、新城原の一部土地区画整理事業が始まる。新城地区民運動会が始まる	1986 昭和61 マールアシビ(寅年)、郷友会事務所前広場で開催。組師 伏山劇詩(組師の波司)「戦後初上演」(中部地区国民年金大会にて普天間自治会が優良民間地区組織として社会保険庁長官賞および表彰される)
1966 昭和41 新城通(旧14号線)道路改修	1992 平成4 新城地区青年会を創設(発起人:新城地区安全協力会(1990年〜))結成
1967 昭和42 第一地区土地区画整理事業(新城地内30号線の排水、歩道整備、第16号線、第10号線、第8号線の街路改修工事着手)	1994 平成6 新城土地区画整理事業記念碑を建立
1968 新城自治会・老人クラブ福寿会結成	1995 平成7 新城児童センター落成
新城郷友会・字新城郷友会、慰霊塔「あらしの塔」建立、普天間飛行場内にあった元集落の御願所を一つ所にまとめる	1998 平成10 マールアシビ(寅年)開催。戦後初の道シユネと組師「ユタ」の上演
1969 昭和44 普天間第二小学校開校/新城青年会館完成	2000 平成12 創作市民劇「新城村と佐喜真興典、市民会館にて上演
1970 昭和45 第二地区土地区画整理完了	2003 平成15 新城地区安全協力会、(財)全国防犯協会連合会および社会安全責成賞を受賞。新城の御願所の改修
1972 昭和47 沖繩県発見「新城の伝統芸能」(天川総師)10年ぶりに復活	2004 平成16 新城自治会創立40周年記念「マールアシビ(申年)開催
1981 昭和55 新任市長が訪れる(普天間、野黨、新城、喜友名の各一部)	2005 平成17 新城地区安全協力会による普天間飛行場の巡回開始
1986 昭和61 マールアシビ(寅年)、郷友会事務所前広場で開催。組師 伏山劇詩(組師の波司)「戦後初上演」(中部地区国民年金大会にて普天間自治会が優良民間地区組織として社会保険庁長官賞および表彰される)	2010 平成22 マールアシビ(寅年)開催
1992 平成4 新城地区青年会を創設(発起人:新城地区安全協力会(1990年〜))結成	2015 平成27 普天間第二小学校運動場(米軍へ)の意が落下
1994 平成6 新城土地区画整理事業記念碑を建立	2018 平成30 普天間第二小学校運動場(米軍へ)の意が落下
1995 平成7 新城児童センター落成	2020 令和2 新しい「新城公民館建設のため、自治会事務所を字新城郷友会事務所へ一時移転

1 シンバルガ



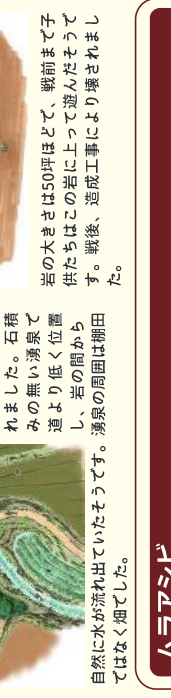
1 シンバルガ

2 カナンシー



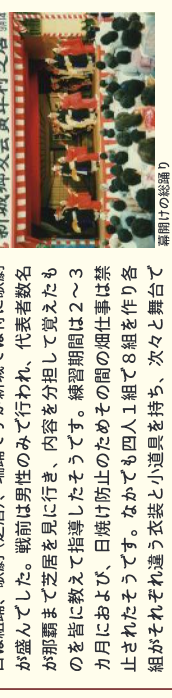
「アラグスクフ ルガー」とも呼ばれ、小字下原に集落があった頃、ムラガー(村泉)、ウラガー(産泉)として利用されました。石積み目の無い低く位置し、岩の間から自然に水が流れ出ていたそうです。湧泉の周囲は棚田ではなく畑でした。

3 イシジャー



多孔質で透水性の高い琉球石灰岩が広く分布する地帯では、雨水は蒸発あるいは地下に浸透するため河川は形成されません。しかしイシジャーは深谷状の河川で、一部では湧水も見られるため、他の琉球石灰岩地域では見られない珍しい地形といえます。深谷の両側には約120基の多様な型式の古墓が並んでいます。

4 あらしの塔



沖縄戦では戦前の住民の32%にあたる39人が亡くなりました。字新城郷友会では1968(昭和43)年に慰霊塔「あらしの塔」を建立し、毎年6〜7月に慰霊祭を執り行っています。

5 シマスカ



普天間飛行場の東側に残る全長約415mの涵洞で、入り口に続く階段を下りると、左側には湧き水を溜めた貯水槽があり、そこから溢れ出た水は入り口右側にある溝の奥へと流れています。沖縄戦では避難壕として利用されました。

ムラアシビ

ムラアシビはムラの神々に五穀豊穡を感謝し豊年を祈願する行事で、各ムラで盛大に行われました。新城は他集落と違い、毎年の暮取りの行事に合わせて、寅年と申年に遊り庭に仮設舞台を作り、衣装も揃えた大掛かりなムラアシビを行いました。

タンクトゥイアシビとも呼ばれたムラアシビの主な演目は組踊、歌劇(芝居)、謡謡ですが新城では特に歌劇が盛んでした。戦前は男性のみで行われ、代表者数名が那覇まで芝居を見に行き、内容を分担して貰ったものを皆に教える指導したそうです。練習期間は2〜3カ月におよび、日焼け防止のためその間の畑仕事は禁止されたそうです。なかでも四人1組で8組を作り各組がそれぞれ違う衣装と小道具を持ち、次々と舞台で踊る「総踊り」という演目も、新城だけのものとして。

開始時期についてはアシビナーが造られた1890(明治23)(寅)年とする説や、病気が流行した際にサンジソウから六年に一度ムラアシビを行うよう指示された。等の伝承があります。

1947(昭和22)年には帰村祝いのアシビが行われました。衣装などは全て戦争で失われたので自分たちで工夫して製作し音の芝居が盛大に行われました。